

ANNUAL REPORT 2022

ANNUAL REPORT 2022



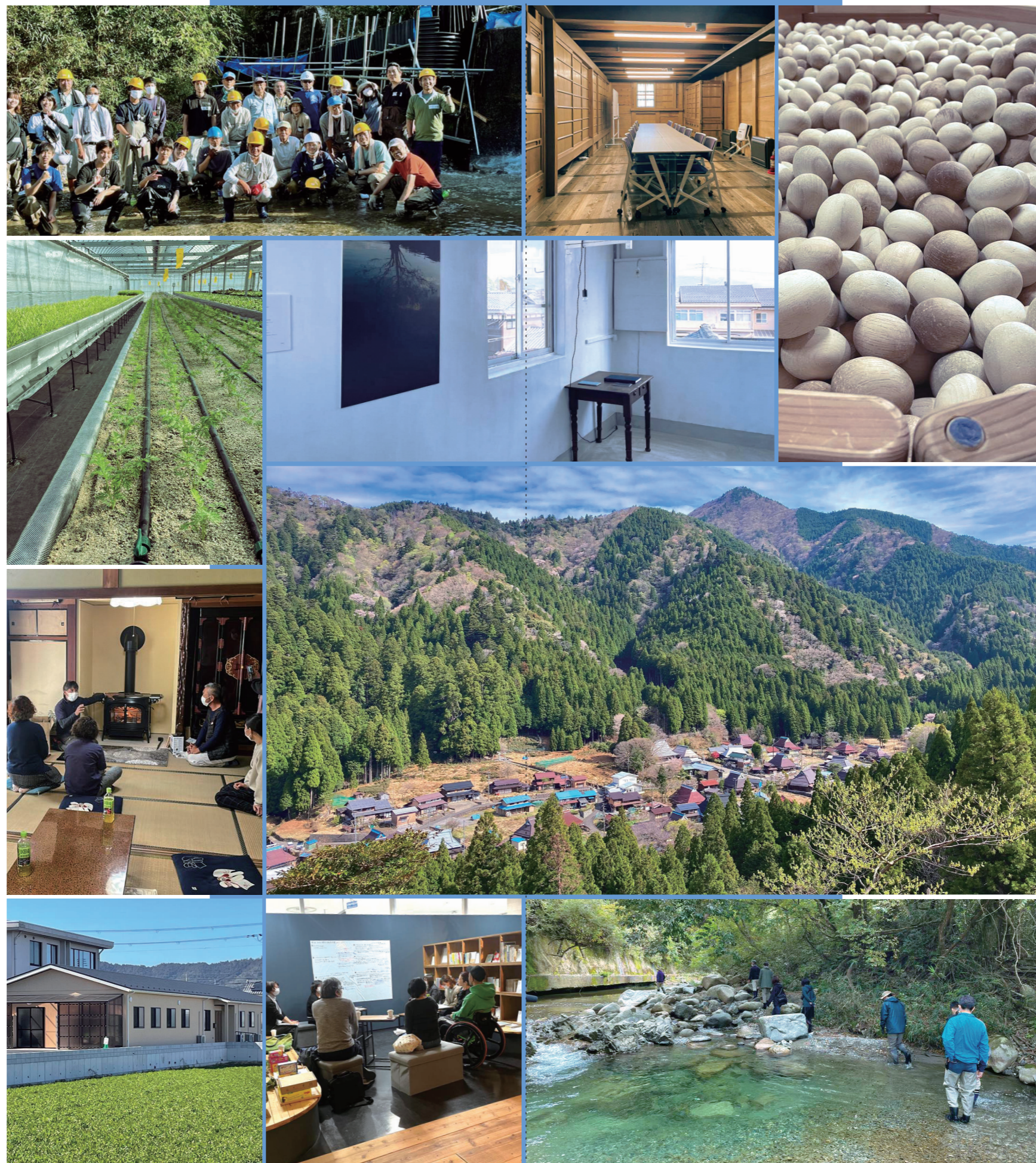
公益財団法人
東近江三方よし基金

〒527-0012
滋賀県東近江市八日市本町 9-19
TEL 080-2541-9990
MAIL 3poyoshi.kikin@gmail.com



3poyoshi.com

発行
公益財団法人 東近江三方よし基金
制作 NPO法人 ナイマゼ
デザイン 高橋 潤己 (QUATTRO design)



東近江三方よし基金
2022 年度年次報告書

ごあいさつ

2022年度を振り返りますと、コロナ禍での行動制限がなくなり経済の回復が見え始めました。その一方で、コロナ禍で顕在化した根の深い課題は一朝一夕には解決するものでなく、さらに食品の値上げや原油価格の高騰、人手や原材料の不足など、生活に直結し、多くの人々に影響を与える社会的な課題が増えた年でもありました。私たちは、2021年度に引き続き、東近江の森と人をつなぐあかね基金助成事業、KBMありがとうカンパニー基金助成事業、休眠預金を活用した事業、東近江市版SIB(ソーシャル・インパクト・ボンド)、地元の金融機関と連携した融資制度「ビーンズ」などの仕組みを通じて、地域の資源を活用し人と人をつなぐことで課題を解決できるよう力を注ぎました。

上記のKBMありがとうカンパニー基金助成事業は、小林事務機株式会社の設立50周年記念のご寄付により2019年に創設された冠基金により実現しました。2022年度には、同事業が完了し、その事後評価を行いました。同社は、東近江市に本社を置き、当市発祥のガリ版印刷機を始めとする孔版印刷機を取り扱われています。助成事業を通じて、東近江のガリ版印刷の文化を継承し、地域の居場所づくりにもつながりました。小林事務機株式会社のご厚意に改めて心より感謝するとともに、私たちも地域の一員としての企業の思いを実現するお手伝いをさせていただけたことに

大きな喜びを感じました。東近江三方よし基金が介することで、企業と人、地域、環境をつなぎ、SDGs(持続可能な開発目標)を見据えた多角的な展開につながる可能性を確信することができました。

この貴重な成果は、地域の企業や市民の皆さまのお力あってのものであり、是非今後につなげたいと思います。現在、地域の課題解決や活性化につながる新たな仕組みを検討しています。どうぞこれからも企業や市民の皆さまの思いをお聞かせください。どのような夢や希望があるのか、どのような課題や困りごとがあるのか、地域で使えるものは何か、誰に何が出来るのかなど、皆さまと一緒に考え、皆さまと一緒に実現したいと思います。引き続き当基金へのご理解とご支援を心よりお願い申し上げます。



東近江三方よし基金
理事長

池永 肇恵

IKENAGA TOSHIE

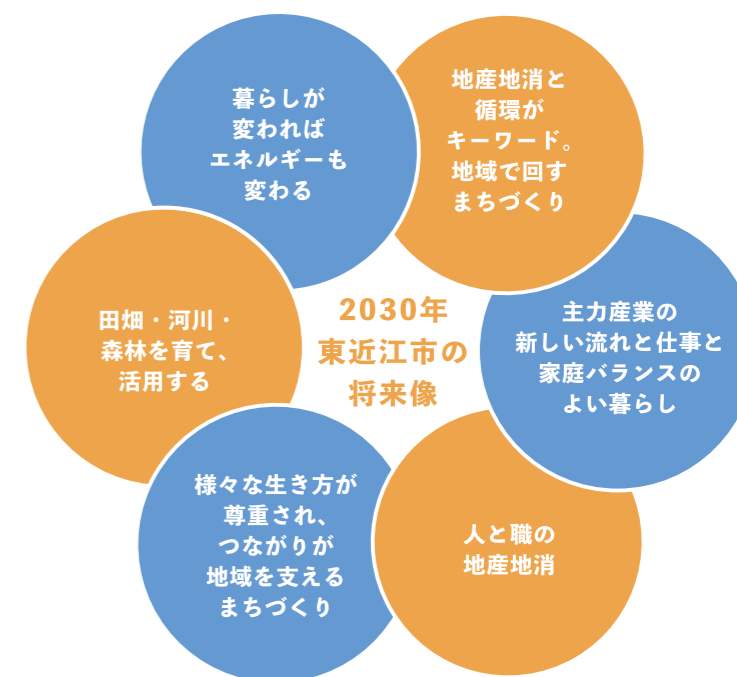
東近江三方よし基金は、 持続可能な東近江エリアの 実現へ向けた市民活動を支援する コミュニティ財団です



PURPOSE | 地域資源を活かした
地域課題解決を目指す主体・活動を
市民が支える仕組みを構築することを通じ
循環共生型の社会づくりに資すること

公益財団法人東近江三方よし基金は、持続可能な東近江エリアを実現するために、必要な資金の調達や伴走支援等を担っていく目的で設立されました。

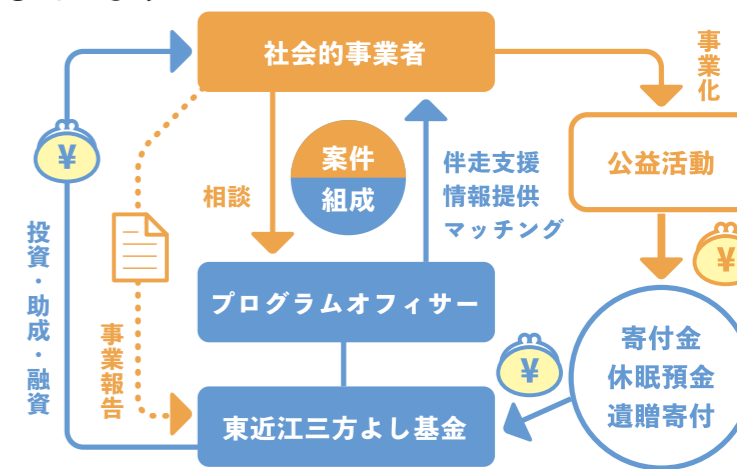
支援対象の指標としているのは、2009年2月から2011年3月にかけて開催された「ひがしおうみ環境円卓会議」で描かれた「2030年東近江市の将来像」です。東近江市の特色ある自然資本・人工資本・人的資本・社会関係資本といった地域資源を活かしながら地域の課題解決を目指す主体・活動に対し、市民が支える仕組みづくりを通じて「未来資本」を創出し、東近江市地域の活性化および循環共生型の社会づくりに資することを目的としています。



ACTIVITY | 地域資源を活用した
地域課題解決および
地域活性化を推進するための
コミュニティビジネスを支援しています

東近江市には、空き店舗のリノベーション、森林資源を活用した商品開発、働きづらさを抱える若者の就労支援など、地域の課題に気づき、行動し始めている人たちが多くいます。

市民がチャレンジしやすくなり、新たな地域課題に気づき行動する人が増え、自分たちのまちがより住みやすくなるよう、東近江三方よし基金では地域課題の解決と地域資源を活用した地域活性化を推進するためのコミュニティビジネスを支援しています。この取り組みにより、「温かいお金」が地域内で循環する仕組みづくりにも力を入れています。



社会的インパクトと成果の見える化

2022年度は、過去6年間で当基金が支援してきた取り組みの内容および地域に与えた影響についての整理に取り組みました。

この期間に実施した社会インパクトの分析により、3つの主要なアウトカム(変化・効果)が明らかになりました。さらに、これまで支援・応援してきた25のテーマにわたる80

のプロジェクトをマッピングした結果、「森里川湖を軸とした複合的な社会課題解決のための地域社会システム」の基盤構築が進んでいることが見えてきました。これらの成果を踏まえ、2022年度の理事会では今後の戦略について議論を進めています。

東近江三方よし基金が作ってきた3つのアウトカム(変化・効果)

01

東近江版 コミュニティファンドの 組成

活動の規模や特性に合わせて最適な支援を行うため、複数の資金調達チャンネルを模索し、5つのチャンネルを構築しました。また、活動の成果を重視した東近江市版SIB事業をいち早く取り組み、制度の導入・運用を行ってきました。

アウトカム

• 取り組みに対する支援総額
2億4千万円

• まちづくり活動における
資金調達チャンネル 5チャンネル

- 1 あかね基金のクラウドファンディング
- 2 行政からの調査業務委託
- 3 金融機関からの融資制度「ビーナス」
- 4 ふるさと納税(一般の人からの資金調達)
- 5 休眠預金制度の活用

• 公的資金調達の改革

02

相談できる体制、 応援しあう関係性の 確立

772人の出資から立ち上がった基金として、東近江での応援しあう関係性の輪を広げ、相談や伴走できるスキームを確立しました。この6年間で、人との信頼関係やつながりなど、社会関係資本を蓄積してきました。

アウトカム

• 支援者総額
772人
+ 寄付やSIB支援者数

• 支援者・理解者の増加

• 相談・伴走体制の確立

03

地域の マインドチェンジ

73の市民活動プロジェクトを支援し、そのなかで社会課題の解決を進めてきました。目標達成により、新しい課題に取り組む動きや新たな展開が多く生まれました。

アウトカム

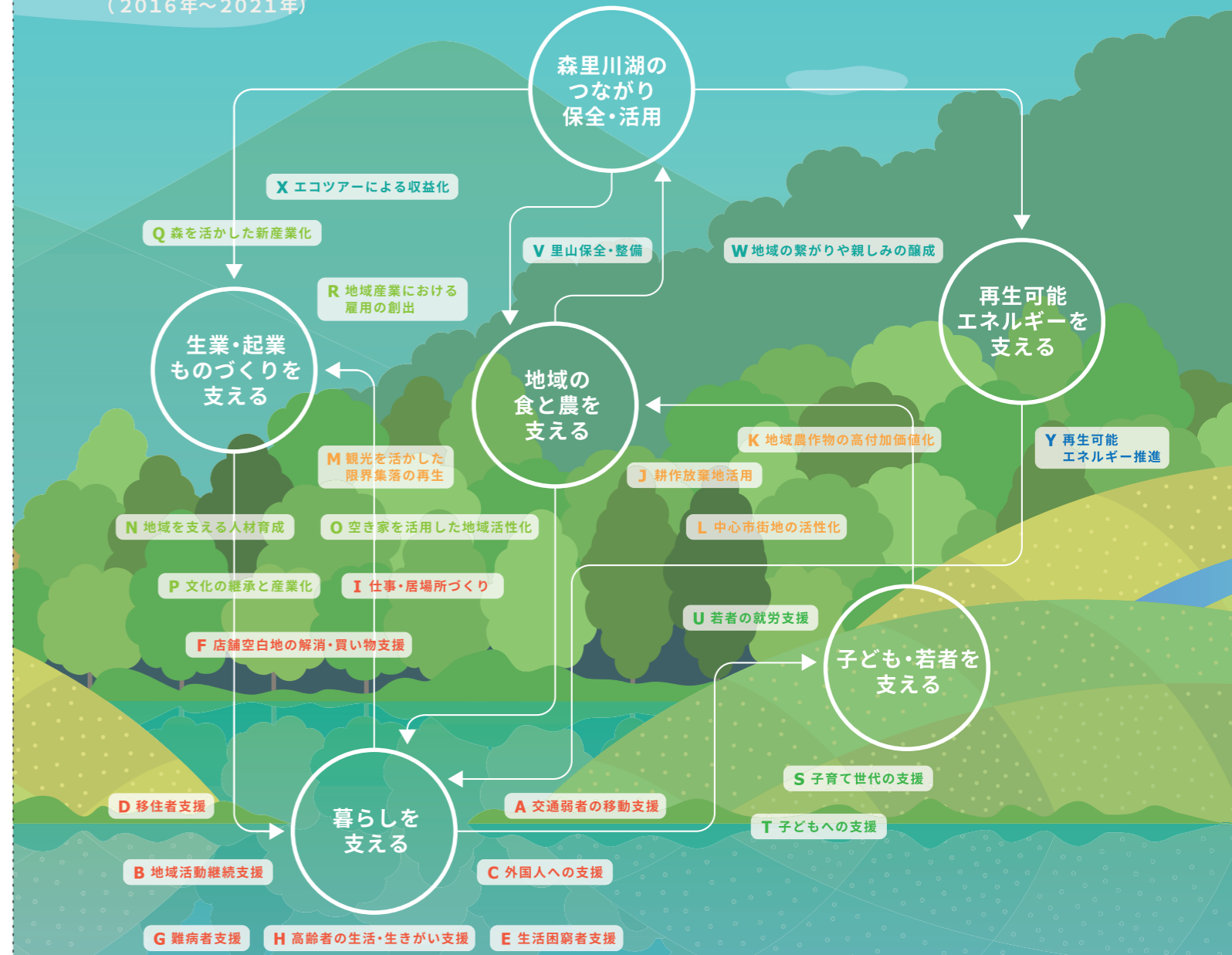
• 総プロジェクト数
73プロジェクト

• 実行団体数
延べ73団体

• 実行団体の成長

PROJECT MAP.

東近江三方よし基金 プロジェクトマップ
(2016年~2021年)



森里川湖を軸とした、複合的な社会課題解決のための地域社会システム

東近江三方よし基金は、2016年からコミュニティファンドとして地域活動を支援してきました。当基金は、東近江市の自然環境を保全し活用する取り組みや、人と人、人と自然をつなぐプロジェクトを通じて、東近江市の「未来資本をたためよう！」という活動を推進してきました。支援した地域活動は25テーマ、73のプロジェクトに及びます。

上記のマップは、基金が設定する6つの支援分野を軸に、これまでの25テーマをマッピングしたものです。6年間の活動を通して見えてきたのは、森里川湖を軸とし、人々が暮らし、仕事がつながり、地域資源を活用した地域社会システムが形成さ

れていることです。各プロジェクトは地域課題にフォーカスし実施され、東近江市の自然環境や人々とのつながりを通じて、新たな挑戦や良い循環を生み出しています。東近江三方よし基金の6年間のインパクトは、「森里川湖を軸とした複合的な社会課題解決のための地域社会システム」の基盤を構築したことにあります。

この基盤を軸に、自然環境を活かした取り組みや自然共生社会への取り組みにおいて、今後もさらに多くの可能性があると考えています。

東近江市幸町にある「小林事務機株式会社」は、設立50周年の記念事業として冠基金「KBM ありがとうカンパニー基金」を設立。この財源を使用して、2021年に東近江市発祥のガリ版印刷の文化継承などの活動を「新ガリ版ネットワーク」が行いました。

2022年度にはその活動の事後評価が行われ、選考委員によって十分な成果が認められました。

今回は、事業が終了したこの機会に、冠基金の立ち上げやその活用方法について、小林事務機株式会社的小林弘和社長と新ガリ版ネットワークの田中浩さんにお話を伺いました。



地元への感謝と
未来への文化継承の想いをこめて、
ありがとうカンパニー基金を設立

— まずはじめに、小林社長から「KBM ありがとうカンパニー基金」を設立された背景についてお伺いできますか？

小林社長: 2019年に小林事務機が設立50年を迎え、その記念事業の一つとして基金を設立しました。

弊社がガリ版の文化継承を基金の使徒として設定した理由の一つは、会社がガリ版技術をベースにした「リソグラフ」というデジタル印刷機で育てられてきたからです。リソグラフは学校や官庁をはじめあらゆる場所で使われていて、滋賀県内の販売および修理メンテナンスをずっと担当させていただいてきました。

もう一つは、ガリ版技術の発展と定着に貢献した堀井さんが、私たちの地元である東近江市に住んでいたことも重要な要素です。ガリ版の歴史や技術がこれからも長い間残り、多くの人が知る機会をつくっていくことが大事だと思います、そのために基金を使っただけならばという思いで設立しました。

— なぜ東近江三方よし基金を通じて「冠基金」を立ち上げることに決めたのですか？

小林社長: 思い返してみると、きっかけは本日お見えの「東近江三方よし基金」の山口さんとのご縁が大きかったと思います。

多くの企業さんが周年記念などで寄付行為を行いたいと企画された時に、寄付先や資金の活かし方に悩まれるのではないかと思います。私の場合も、滋賀県内の基金や自治体等への寄付など様々に思い描きましたが、資金の使用目的を絞り込んで明確化し、さらに地元への貢献度も重視した時に今回の「冠基金」が最適だと判断して、設立を決意しました。

ガリ版の体験や文化に触れる機会を
作ることで未来につながる

— 田中さん、簡単に新ガリ版ネットワークの紹介をいただけますでしょうか？

田中: ガリ版が生まれて100周年になる1994年に東京経済大学でガリ版の展示会を開催したところ、ガリ版を使っています、やってみたいという方がたくさん来られました。しかし、当時は関心を持ってくださっても機材がどこで買えるのか、どのように印刷すればよいかなど情報がまったくない状況でした。このような「ガリ版難民」を



新ガリ版ネットワーク
事務局長

田中 浩

TANAKA HIROSHI

KBM ありがとうカンパニー基金を活用した

なんとか救おう、ノウハウを教えたり実際に体験できる場を作ろうと「ガリ版ネットワーク」の会ができました。

その活動は13年半続きましたが、活動する方が高齢化してきたことをきっかけに2007年に幕を閉じました。しかし、東近江に伝承館ができたことでこれからもここを中心に活動していきたいという思いから、代表の方と相談して新たに「新ガリ版ネットワーク」を2008年に立ち上げました。基本的に、当初のガリ版ネットワークとほぼ同じ活動をずっと進めていて今年で15年になります。

— 今回 KBM ありがとうカンパニー基金から助成を受けて、実際にどのような活動をして、どういった結果になったのか教えてください。

田中: 15年前にガリ版ネットワークから相当量のガリ版機材や資料を引き継ぎ、また3年前にはガリ版の研究者から4500点以上の資料を寄贈していただいたんです。総数で1万点近くの資料が集まりました。現在、地元の6~7人のメンバーで活動していますが、この膨大な量の資料を整理するのはとても大変で、スキャナーなどの機器や活動する場所もなかったんです。なんとかフォローしてもらえそうな基金がないかなと考えていたときに、小林事務機さんの基金が設立されたとのことで手を挙げさせていただいたんです。

基金の支援により資料の目録作成に取り組み、主要な資料約3500点の目録が完成しました。これらの資料に写真に関連づけてアーカイブとして活用するための取り組みも進行中です。

若い世代にもガリ版の存在を広く知ってもらうために、SNSを活用したネットワーク配信を強化し、ホームページもリニューアルしました。これにより、全国からの閲覧量が増加し、ガリ版に関する検索でも我々の情報が表示されるようになり、多くの問い合わせも寄せられるようになりました。これは大きな成果の一つです。

また、実際にガリ版を使ってもらうことが大事だと思います、「ガリ版でつくる思い出だより」というプロジェクトも実施し、自分の思い出を文字や絵で描いた作品を集



小林事務機株式会社
代表取締役

小林 弘和

KOBAYASHI HIROKAZU

めました。全国から127点もの作品が集まり、これらの作品はコミュニティーセンターや東近江市役所のエントランスで展示させていただいて、地元の方々にも楽しんでもらいました。とくに市役所職員の方が関心を持って見てくれて、市との協力を通じてガリ版の体験イベントを実施する機会も得られました。

こういった活動を通して、単に「ガリ版にはそういう歴史があったよ」だけではなく、今もなおその技術が新しい形で引き継がれていることを若い世代、子どもたちにガリ版体験などを通じて知ってもらいたいなと思っています。そういうことを知ってもらうことから、歴史への興味が生まれてくると思っています。



冠基金が地域とつながるきっかけに

— 今回、KBM ありがとうカンパニー基金の助成と、他の助成プログラムを使う場合の違いはありましたか？

田中: そうですね。やはり地元の方からの冠基金ですので、想いが一緒だという感じがしましたし、そういう意味で大変受けやすかったです。あとは、活動をするにあたって、東近江三方よし基金からいろいろな助言をいただいたり、助成の選考時に選考委員から「ガリ版を知らない市外の人も触れられる機会を増やしてほしい」という声もあって、「思い出だより」の展示はいろいろな人に声をかけました。

他の助成プログラムでは、私たちの活動内容を知らない中でのやり取りになり難しい面もありました。地元の基金から支援を受けられるのはやはり大きな支えになります。

— あらためて、冠基金を設立してみたいか教えてください。

小林社長: 今回は、50周年を機に地域に貢献したいという会社の想いと、三方よし基金や新ガリ版ネットワークさんとの出会いがマッチングして、冠基金の設立が実現できたと感じています。この冠基金を設立したことによって、新ガリ版ネットワークさんとのつながりも新たに生まれ、弊社の社員研修の場としても利用させていただきました。

企業が想いを持って冠基金を設立することは、間違いなく良いことだと感じています。多くの企業が地元への貢献の意識を持っているなかで、行動を起こすためにはなにかきっかけが必要です。そのきっかけの一つに冠基金が存在していることは非常に価値があると思います。

東近江の森と人をつなぐ あかね基金 助成事業

東近江三方よし基金は、森林の保全や資源の活用、山村文化の継承などを実現するためにいただいた寄付をきっかけに、2018年に「東近江の森と人をつなぐ あかね基金」を創設。あかね基金の趣旨に賛同いただいた企業・団体からの寄付・個人、および東近江市のふるさと納税からの拠出金をもとに助成事業を実施しています。

2020年度寄付活用公募事業に関しては、評価委員による事後評価を行い、成果目標の達成を確認しました。

2021年度寄付活用公募事業については、以下の4団体を採択しました。

< 2021年度寄付活用公募分 >

- 公募期間：2022年2月25日～2022年4月8日
- 選考会：2022年5月6日

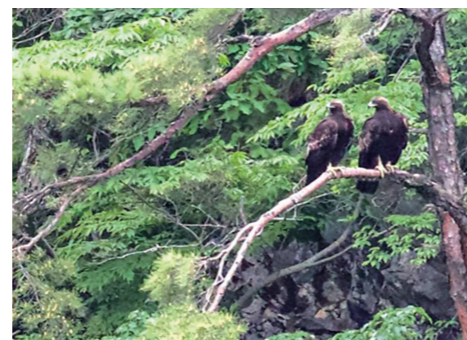


東近江に再びイヌワシを呼び戻すプロジェクト協議会

イヌワシが再び生息できるよう 狩場や生息地の環境整備を検討

生命が巡る森の象徴であるイヌワシを呼び戻すことを目標に、狩場となる場所の植生改善や試験伐採などをはじめ、地域の森林景観や生物多様性の向上を通じ、持続可能な森林資源の活用につながる取り組みを続けています。

管内でのイヌワシの情報整理、過去のハンティング場所のマップ作製、狩場再生の優先サイト選定、先進地の事例収集などを実施しました。



楽楽ひろば

地域の居場所「永源寺図書館」 からひろがる、人と自然をつなぐ

東近江市立永源寺図書館を拠点に、人と自然がつながるための居場所をつくり、地域の高齢者の知恵や自然とものを大切にする思いを次世代に伝え、自然豊かな地域を未来に残していくことを目的に活動しています。

伐採木を使った木工教室の開催や、地域のための自然体験学習を通して、地域資源に目を向ける機会を提供しました。



AKANE KIKIN
SUBSIDIZED PROJECT

梵ジュール里山保全クラブ

森の宝を取り戻せ！ 間伐材の大変身！

放置林に手を入れ、散策道を整備することで、訪れる人々が憩いを楽しめる里山をつくり、絶滅危惧種や希少種の植物の生き物を育む環境を守る活動に取り組んでいます。

間伐材や倒木を薪やしいたけの原木に加工して販売し、里山保全活動を行い、エコツアーを開催しています。また、植物や生き物の調査、保護、観察会なども実施しました。



東近江市 あらゆる場面で木を使う推進協議会

あらゆる場面で木を使う プロジェクト事業

東近江市産の木材を使用した玩具や遊具の製作、木製品による木育イベントの開催を通じて、森林と自然環境の大切さを学ぶ機会を提供し、豊かな心と生きる力を育む活動をしています。

市内産木材の積極的な活用と、市内外でのイベント開催を通じて森林や自然環境の大切さを広め、鈴鹿から琵琶湖に至る豊かな自然を次世代の子どもたちに引き継ぐ活動を進めています。



遊休資産を活用した活動の支援

2022年度は、休眠預金の活用や、連携制度融資の様々な仕組みを活用しながら、多くの市民活動を支援してきました。

その中で、地域にある遊休資産を活動拠点として利用している事例を紹介します。



休眠預金活用

伴走支援

総働で地域につなぐ移住者支援拠点づくり 特定非営利活動法人 愛のまちエコ倶楽部

移住者が活躍できる支援体制の構築

人口減少に伴い地域が脆弱化する中で、意図的に地方を選ぶ移住者は将来の社会ビジョンを持つ貴重な人材です。しかし、行政の支援には移住者と地域を結びつけるための適切な手段が不足しており、ミスマッチや孤立が生じていることがあります。

このプロジェクトでは、空き家を活用した交流拠点「だれんち」を創設しました。これにより、移住者と地域住民、移住者同士の交流を促進し、移住者の「暮らす・働く」価値観を具体化し、地域の中で活躍できる支援体制を構築しました。



休眠預金活用

伴走支援

空き家を活用して命を守りつなぐ場づくり 一般社団法人 TeamNorishiro

空き家を活用した暮らしとつながりづくりの応援

空き家を利用して、働きもん(現行の福祉制度を利用できない引きこもりの若者や、障がいを持つ人たちを、ここでは愛をもってそう呼ぶ) に対する緊急時の避難場所や、成長のための経験を積める「暮らしの応援の場」を提供し始めました。また、地域内で障がい福祉について理解を深める機会を提供し、彼らの応援団を増やすことで、さまざまな困難を乗り越えるための地域力を強化することを目指しています。

彼らの暮らしや働きをサポートし、地域全体の活力を高められる地域になり始めています。



休眠預金活用

伴走支援

産み方・生き方を支える活動を広める 産前産後の継続ケア お産&子育てを支える会

女性たちが助産師とつながる地域づくり

自然なお産を望む女性を受け入れる地域の開業助産師や助産所の存在はあまり知られていないことに加え、出産後に気軽に相談できる場所としても認識されていない現状があります。また、産後早期に医療機関と助産師が連携できるシステムがなく切目だけの支援体制となっています。

そのため、東近江市を中心とした近隣の地域で、地域の助産師の存在を広め、必要な時に支援が得られるシステムを構築、それを担う開業助産師を育成します。



連携制度融資

利子補給

伴走支援

五個荘金堂地区内での空き家活用事業 株式会社 いろは

五個荘金堂地区の空き家問題を解決

五個荘金堂の伝統的な建築物が形成する町並みは、自治会の高齢化と維持費用の問題に直面しています。

この課題に対応するため、空き家を改修し、歴史的建築物を活用した分散型ホテル事業を展開しています。これにより、地区の景観と活気を回復し、空き家問題の解決にも貢献しています。また、近江商人の精神「三方よし」を体現する土地として、地域住民のアイデンティティを再構築しています。



休眠預金活用

連携制度融資

利子補給

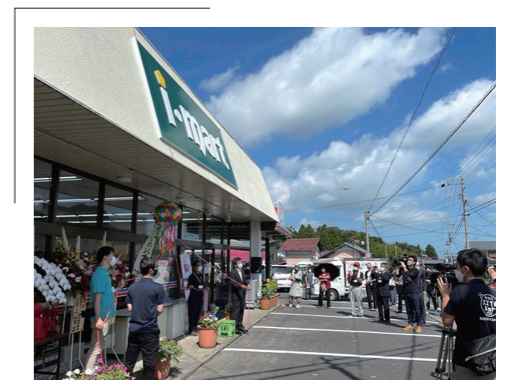
伴走支援

スーパーマーケットの再建 愛のまち 合同会社

スーパー再建による持続可能な地域課題の解決

ますます複雑化する地域課題の解決に向けて、スーパーマーケットを中心とした取り組みを進めています。ここでは、課題の共有と一般化を進め、「ふくしモール」と「愛東暮らしの会議(第2層協議体)」が主導する解決への取り組みの仕組みを構築しています。

この核となるスーパーマーケットを再建し、店舗経営をエンジンにして地域課題に持続的に対応する体制を整えました。これにより、どんな状況でも安心して生活できる地域づくりを目指しています。



MESSAGE

東近江三方よし基金を
応援してくださっている方々から

応援メッセージをいただきました！

滋賀県立大学 地域共生センター 教授 鵜飼 修 氏

東近江三方よし基金が運営に携わっている「コミュニティビジネススタートアップ支援事業」で活動創発を支援しており、これまでの7年間で16事業を支援してきました。

同事業は SIB(ソーシャル・インパクト・ボンド)の仕組みを導入し、本来なら行政が助成金を直接対象者に渡すところを、市民の融資を募り、事業の成否の判定をふまえて助成金を渡す、まさに地域事業に市民参加を促す仕組みです。

この仕組みの導入は全国的にも先進的取り組みであり、地域活動の継続性を生み出す支援の象徴的な存在のひとつとなっています。

お金の力を活かし、地域住民や地域事業者による主体的な「地域を良くする活動」への「資金的支援の充実」を、これからも期待したいです。



湖東信用金庫 理事長 矢島 之貴 氏

弊金庫は、相互扶助型の地域金融機関として昭和23年に東近江市(旧八日市町)に設立され今年、創立75周年を迎えさせていただきました。

私どもは、「報恩感謝」を旨として、地域産業と地域社会の発展に貢献することを使命としております。SDGsでいう皆がお互いに助け合う地域内循環のお手伝い、ESG金融への取組について、東近江三方よし基金さまと一層連携を深めさせていただき地域課題解決・地域の発展の為、協力してまいります。

東近江三方よし基金さまにおかれましては地域課題の解決に向けた活動や地域資源を活かした環境・社会・生活などの様々な分野で地域の未来を良くするためのコーディネーターとして発展されることを期待しております。



匿名寄付者

コロナ感染症拡大の影響を受け、パート切りなどで生活が困窮する方が増えた時期に、私にとっては予想外の収入が入りましたので、「微力ながら困っておられる方の支援に使っていただこう」と基金に寄付金を届けました。その後も、「続けられる限りは少しでも・・・」と思っています。

私は、市内の大切な子どもたちが生活困窮によって成長(健全育成)が妨げられることの無いように、そしてすべての子どもに幸せになって欲しいとの願いで微力ながら出来る範囲で続けていきたいと思っております。

支えてくださった企業・団体のみなさま

びわ湖東近江SEA TO SUMMIT実行委員会 山崎動物病院 / 宇佐美造林株式会社

寄付累計(2023.3.31現在) **15,254,779円** ※不動産除く
(2022年度寄付額 2,557,232円)

この他にも、多くの皆様に支えられておりますこと、関係者一同心よりお礼申し上げます。

東近江三方よし基金では、企業・個人のみなさまからの 寄付をお受けしています

1 テーマを選んで寄付する

関心のあるテーマを選んで寄付していただける「分野指定寄付プログラム」を実施しています。このご寄付はそれぞれの項目に沿って、事業がうまれたときにまとめて使わせていただきます。

暮らしを支える / 地域の食と農を支える / 森里川湖のつながり・保全
子ども・若者を支える / 生業・起業・ものづくりを支える
再生可能エネルギーを支える / 基金を支える

2 寄付で冠基金を設置する

寄付者の意向を反映させたオリジナルの助成金プログラムを作ることができます。また、「冠基金」としてご寄付いただいた場合、その使い方について提案したりご相談もお受けしています。

3 事業を選んで寄付する

寄付を必要とする事業が発生した際に、その事業に対して寄付をいただくプログラムです。

4 東近江版 SIB事業に投資する

東近江市版 SIB事業は、国や市の行政、公益財団法人東近江三方よし基金、湖東信用金庫及びプラスソーシャルインベストメント株式会社の協定のもと、地域課題の解決にむけて、社会的投資と行政補助金改革を組合せた事業を実施するものです。
東近江市版 SIB事業に関する情報はエントライ HP(en-try.jp) をご覧ください。

寄付をお考えの方は、東近江三方よし基金 HPをご確認ください。

3poyoshi.com/page-donation



2022年度 決算報告

正味財産増減計算書

2022年4月1日から2023年3月31日まで

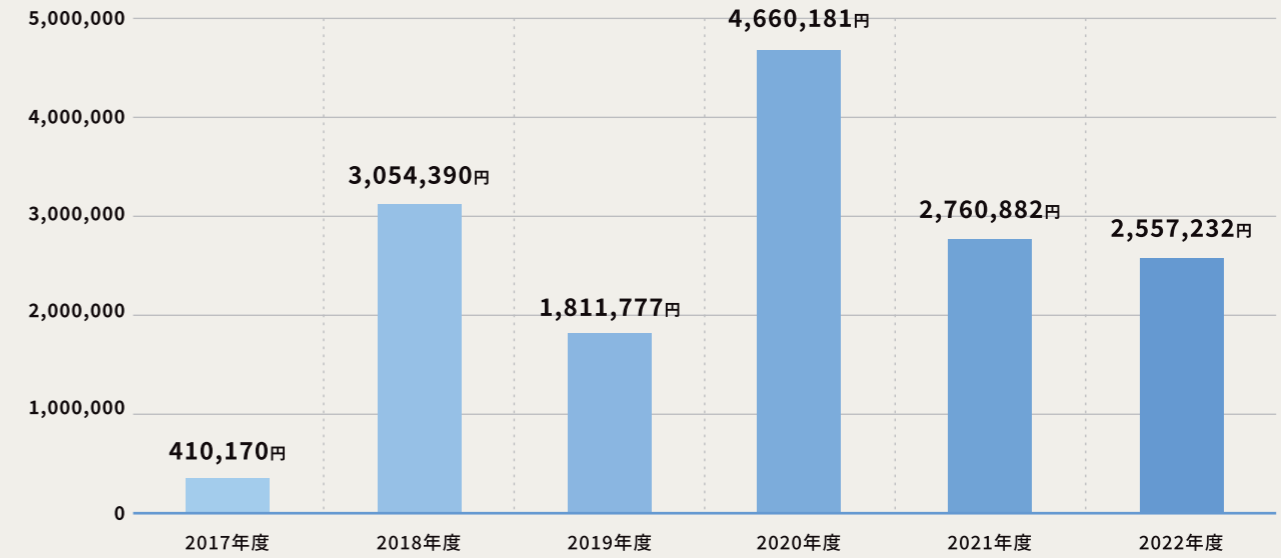
(単位: 円)

科目		当年度	前年度	増減
I 一般正味財産増減の部	1 経常収益	79,498,819	147,778,732	-68,279,913
	基本財産運用益	60	60	0
	受取寄付金	2,561,934	2,302,615	259,319
	受取補助金等	70,036,840	132,427,926	-62,391,086
	事業収益	6,899,544	13,047,716	-6,148,172
	雑収益	441	415	26
	2 経常費用	84,502,067	143,615,420	-59,113,353
	事業費	84,323,353	143,475,742	-59,152,389
	管理費	178,714	139,678	39,036
	1 経常外収益	0	0	0
2 経常外費用	0	0	0	
II 指定正味財産増減の部	一般正味財産期首残高	10,743,365	6,580,053	4,163,312
	一般正味財産期末残高	5,740,117	10,743,365	-5,003,248
	受取補助金等	30,650,000	40,560,000	-9,910,000
	受取寄付金	2,443,398	2,623,041	-179,643
	一般正味財産への振替額	-72,598,774	-133,710,541	61,111,767
III 正味財産期末残高	指定正味財産期首残高	56,027,533	146,555,033	-90,527,500
	指定正味財産期末残高	16,522,157	56,027,533	-39,505,376
	正味財産期末残高	22,262,274	66,770,898	-44,508,624

寄付総額の推移

寄付総額(2023年3月31日 現在)※不動産除く 15,254,632円

(単位: 円)



貸借対照表

2023年3月31日 現在

(単位: 円)

資産の部		負債の部	
1 流動資産		1 流動負債	
現金預金	8,134,890	未払金	7,010,660
未収金	3,005,368	預り金	82,547
流動資産合計	11,140,258	流動負債合計	7,093,207
2 固定資産		負債合計	7,093,207
基本財産合計	3,001,000	正味財産の部	
特定資産合計	7,689,497	1 指定正味財産	16,522,157
その他固定資産合計	7,524,726	2 一般正味財産	5,740,117
固定資産合計	18,215,223	正味財産合計	22,262,274
資産合計	29,355,481	負債及び正味財産合計	29,355,481